

平成29年度全国学力・学習状況調査における熊谷市の結果の概要について

◇本市調査結果の概要◇

【教科調査の概要「全般」】

- 小学校国語A・B、中学校国語B、小学校算数B、中学校数学Bは、一部の設問を除き、正答率が全国平均を上回りました。また、小学校算数A、中学校数学Aは、半数以上の設問の正答率が全国平均を上回りました。
- 中学校は、国語Aよりも国語B、数学Aよりも数学Bが高い傾向にあります。今後は、中学校の国語A、数学Aの学力を高めていく手立てを計画的に講じていくことが必要だと考えております。

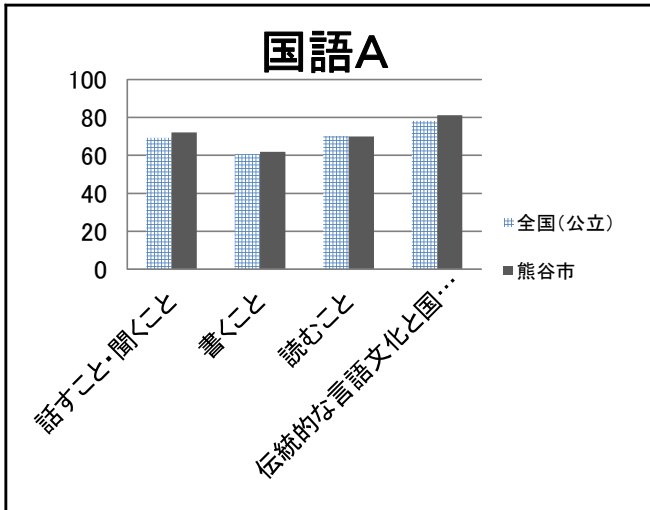
【教科調査の概要「国語」】

- 小学校では、「俳句の情景について考えられたこととして、適切なものを選択すること」や「スピーチの練習の様子を録画した動画を見る目的として、適切なものを選択すること」などが、よくできていました。
一方、「手紙の後付けに必要な「日付、署名、宛名」のそれぞれの位置について、適切なものを選択すること」や「疑問に対する考えを伝え合う場面から、発言者の意図を読み取る」ことなどについては、課題が見られました。
- 中学校では、「目的に応じて資料を効果的に活用して話している箇所を選択すること」などが、よくできていました。また、従来から課題とされてきた複数の情報を関連付けて考える力の向上が見られました。
一方、「話し合いの記録として適切な言葉を考えること」や「事実や事柄、意見や感情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと」などについては、課題が見られました。

【教科調査の概要「算数・数学」】

- 小学校では、「乗法で表すことができる問題場面を式に表すこと」や「立方体において、示された面と並行な面を選ぶこと」などが、よくできていました。
一方、「示された説明を解釈し、別の場合に活用して数学的に表現する」や「仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求めること」などについては、課題が見られました。
- 中学校では、「 $\triangle ABC$ を、点Aから点Pに移すように平行移動した図形をかくこと」や「1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求めること」などが、よくできていました。
一方、「扇形の弧の長さを求めること」や「式で求めることができる理由を説明すること」などについては、課題が見られました。

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「話すこと・聞くこと」が約72%、「書くこと」が約62%、「読むこと」が約70%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が約81%でした。



●話すこと・聞くこと 問題①

学級文集のタイトルを決める話し合いにおける野村さんの報告の説明として、適切なものを選択する問題の正答率は約72%でした。この結果から、「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うこと」への意識が高まっています。

●書くこと 問題②、③

手紙の後付けに必要な「日付、署名、宛名」のそれぞれの位置について、適切なものを選択する問題の正答率は約42%でした。この結果から、「手紙の構成を理解し、後付けを書くこと」が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉問題②

2

お世話になった資料館の山村さんに、お礼の手紙を書いていきます。次の「山村さんへの手紙」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

〔山村さんへの手紙〕

緑が美しい季節となりました。先日はおいそがしいところ、歴史資料館を案内していただき、ありがとうございました。実際に資料館を見学することで、昔の人々のくらしについて考えることができました。

特に心に残っているのは、「昔のくらし体験コーナー」です。せんたく板を使ってあらうと、せんたく機だけでは落ちないようなよなよなこれがきれいに落ちたのでびっくりしました。また、よこれを落とすには時間がかかり、うでがいたくなることを実感しました。今は自動でせんたくができて、その間に他の仕事をすることもできます。でも、昔はせんたく板を使い、長い時間をかけてせんたくをしていたことが、今回の見学を通して分かりました。

昔のくらしのよいところや大変なところを知ることができ、もっと調べてみたくなりました。これからも、いろいろなことをわたしたちに教えてください。

ウ

ア

イ

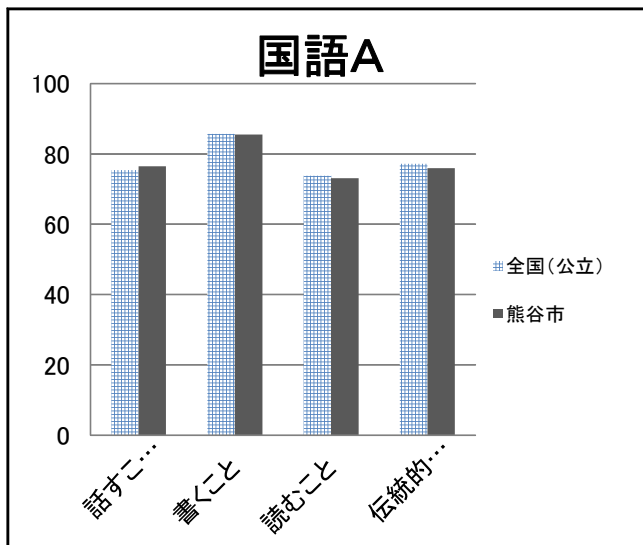
●読むこと 問題④

俳句の情景について考えられたこととして、適切なものを選択する問題の正答率は、約77%でした。これに対して、俳句のよさを見付け、グループで話し合う問題の正答率は約59%でした。この結果から「二つの句に共通する表現の特徴、作者が捉えた情景や季節感を捉えること」が課題となっています。

●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 問題④、⑤、⑥、⑦

漢字の読み書きでは、「読み」が約96%、「書き」が約79%の正答率でした。「書き」の指導に、さらなる工夫改善が求められます。ことわざの使い方の例として適切なものを選択する問題の正答率は約88%でした。これに対して、「古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む」問題の正答率は約73%でした。この結果から、古文の指導にさらなる工夫改善が求められます。

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「話すこと・聞くこと」が約77%、「書くこと」が約86%、「読むこと」が約73%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が約76%でした。



●話すこと・聞くこと 問題②、⑦

目的に応じて資料を効果的に活用して話している箇所を選択する問題の正答率は約89%でした。

これに対して、相手に分かりやすいように語句を選択して適切な発言に直す問題の正答率は約55%でした。この結果から、「相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと」が課題となっています。

●書くこと 問題③、⑤

表現の仕方を工夫して物語を書く問題の正答率は約86%でした。

これに対して、文章の構成を工夫して分かりやすく書く問題の正答率は約77%でした。この結果から、「自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして文章の構成を工夫すること」が課題となっています。

●読むこと 問題④、⑥、⑧

文章について説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は約75%でした。

これに対して、文学的な文章について内容を説明した選択肢を選ぶ問題の正答率は約67%でした。この結果から、「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」が課題となっています。

●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 問題①、⑨

漢字の読み書きでは、「読み」が約95%、「書き」が約65%であり、「書き」の指導にさらなる工夫改善が求められます。語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題については、半数が90%台の正答率でした。

これに対して、話し合いの記録として適切な言葉を考える問題の正答率は約35%でした。この結果から、「場面や状況に応じて言葉を適切に使う力」が課題となっています。

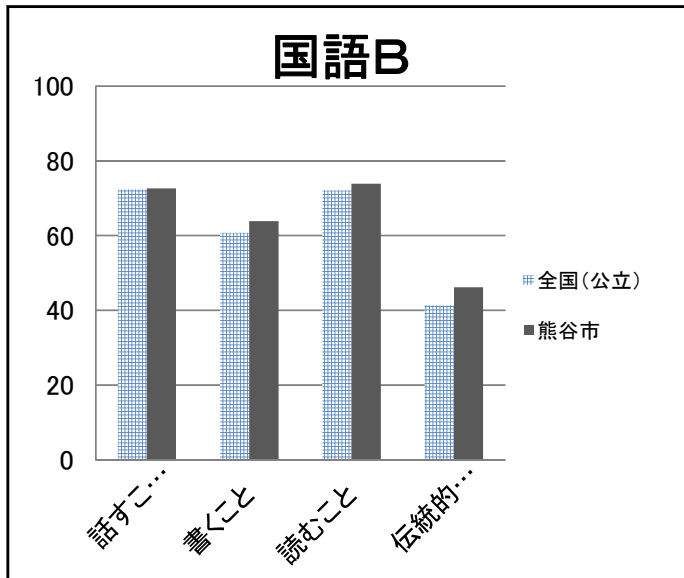
〈課題となっている問題例〉 ⑨

【話し合いの記録】

校内でのあいさつを活発にするための取り組み	
活動内容案	結果
1 標語やポスターの募集と掲示を行う。	可決
2 登校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	<input type="checkbox"/>
3 下校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	否決

五次は、校内でのあいさつを活発にするための取り組みについての「話し合いの記録」です。「活動内容案」の「2」については、今回は結果が出なかったため、あとでもう一度話し合うことになりました。□に当てはまる言葉は、漢字三文字以内で書きなさい。

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「話すこと・聞くこと」が73%、「書くこと」が約64%、「読むこと」が約74%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が46%でした。



●文学的な文章を読む

本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所を読み取る選択式の問題の正答率は約85%でした。また、地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す問題の正答率も約85%でした。

これらに対し、比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題の正答率は約46%でした。この結果から、「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」「比喩や反復などの表現の技法について理解すること」が課題となっています。

●スピーチをする

スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択肢から選ぶ問題の正答率は約85%でした。また、聞き手が話し手に伝えようとしていることとして適切なものを選択肢から選ぶ問題の正答率は75%でした。

これらに対し、スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す問題の正答率は約58%にとどまりました。この結果から、「事実や事柄、意見や感情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと」が課題となっています。

●必要な情報を集める

太宰治と他の作家との関係を書き直したものを選択肢から選ぶ問題の正答率は約79%でした。また、下書きについての説明として適切なものを選択肢の中から選ぶ問題の正答率は約78%でした。

これらの結果から、従来から課題とされてきた複数の情報を関連付けて考える力の向上が見られました。

〈課題となっている問題例〉 ①

【読書の記録】

書名 スコレNo.4
著者名 宮下奈都

(心に残った一文)

(感想)

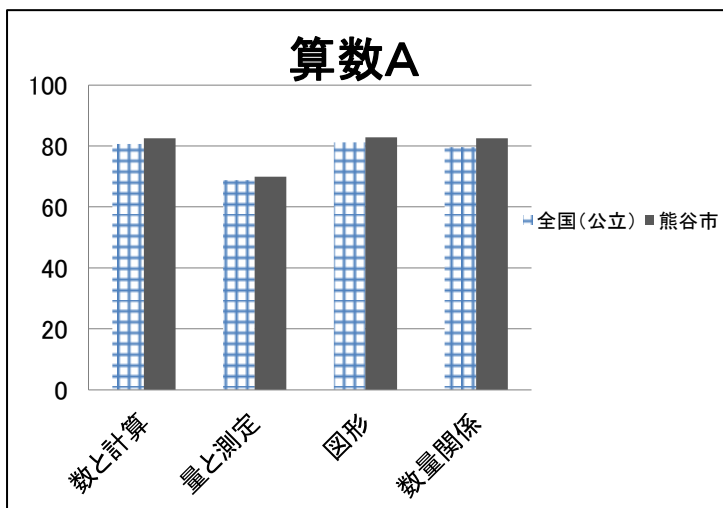
条件1 (心に残った一文)は、「本の一部」から、比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。
条件2 (感想)は、条件1で取り上げた表現について、「誰(何)の」「どのような」様子なのかを明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

三 青山さんは、「本の紹介カード」にある「比喩を用いた表現」に着目して「本の一部」を読み、感じたことや考えたことなどをあとの「読書の記録」に書いています。あなたなら「読書の記録」の(心に残った一文)と(感想)にどのような書きまますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

小学校算数A 主として「知識」に関する問題の調査結果【平成29年度】

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「数と計算」約83%、「量と測定」約70%、「図形」約83%、「数量関係」約83%でした。



●数と計算 問題1、2、3

乗法で表すことができる問題場面を式に表す問題の正答率は約97%でした。一方、乗法の性質を用いて小数の乗法の計算の仕方を考える問題の正答率は約90%でした。また、1より小さい数をかける乗法の問題場面の数量の関係を数直線に表す問題の正答率は約77%でした。さらに、二つの数の最小公倍数を求めることの問題の正答率は、約81%でした。しかし、 $5 \div 9$ の商を分数で表す問題の正答率は約69%となり、「商を分数で表すこと」が課題となっています。

●量と測定 問題4、5

高さが等しい平行四辺形や三角形について、底辺と面積の関係の理解を問う問題の正答率は、約71%でした。

しかし、水のかさをあるものの何杯分かで比較する場面と同じような考え方で重さなどをはかっている場面を選ぶ問題の正答率は約68%であり、「任意単位による測定についての理解」が課題となっています。

●図形 問題6、7

正五角形は5つの合同な二等辺三角形で構成できるため、円を使って正五角形をかくとき、円の中心の周りの角を5等分して半径をかき、五角形の頂点を求めるという問題の正答率は約77%でした。また、立方体において、示された面と平行な面を選ぶ問題の正答率は、約89%でした。

●数量関係 問題8、9

未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表す問題の正答率は約86%でした。また、資料を二次元表に分類整理する問題の正答率は約90%でした。しかし、分類整理した二次元表の合計欄に入る数を求める問題の正答率は約66%であり、「資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めること」が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉 4 量の比較や測定

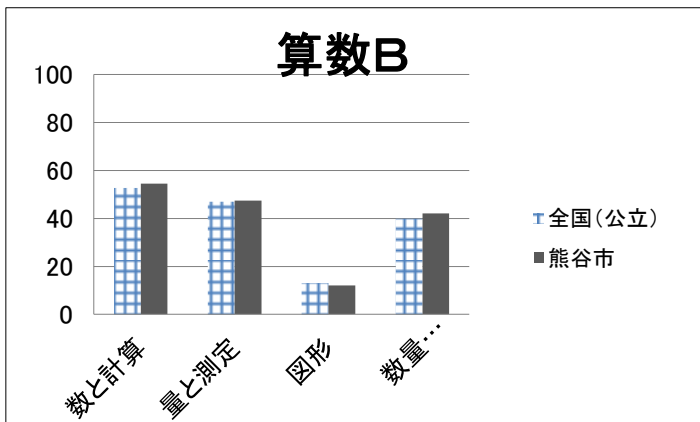
1. のりと消しゴムの重さを、てんびんを使って、同じ重さの積み木の個数で比べます。

2. 分数器と三角定規の重さを、てんびんを使って、どちらにかたむいていくかで比べます。

3. 2本のえんぴつの長さを、えんぴつのしきりをそろえて立て、どちらのえんぴつの先が長いかで比べます。

4. ある紙の縦と横の長さを、同じ長さのボールペンの本数で比べます。

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「数と計算」約55%、「量と測定」約47%、「図形」約12%、「数量関係」約42%でした。



●数と計算 問題1、2

「カードを使った2けたのひき算」の答えについて、「カードの差」が一定の場合、「2けたのひき算の答え」も一定になるという関係をとらえ、それが成り立つわけを図を基に考察し、「カードの差」と「2けたのひき算の答え」のきまりを一般化する問題の正答率は約40%であり、「示された考えを解釈し、ほかの場合において考察すること」や「二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述すること」が課題となっています。

●量と測定 問題3

ゴムの力で動く車が進んだ距離を5回測定し、その平均を求める際に、飛び離れた数値があった場合の平均を求める式を判断する問題の正答率は約70%でした。しかし、仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題の正答率は約25%でした。「示された説明を解釈し、別の場合に活用して数学的に表現すること」が課題となっています。

●図形 問題5

最小の満月の直径を1円玉の直径としたときに最小の満月の直径をもとにして14%長くなっている最大の満月の直径に近い硬貨を選び、そのわけを答える問題の正答率は約12%であり、課題となっています。

●数量関係 問題1、2、3、4、5

示された式の中の数の意味を二次元表と関連付けながら解釈し、それを記述する問題の正答率は約42%でした。また、割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題の正答率は約38%でした。さらに、「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ問題の正答率は、69%でした。「二次元表の特徴の理解を基に論理的に考察すること」や「様々なグラフの特徴を理解し、適切なグラフを用いること」、「基準量、比較量、割合の関係を活用して判断した理由を記述すること」が課題となっています。

《課題となっている問題例》

4 目的に応じた資料の整理と表現

学校で、4年生以上の学年について、ハンカチとティッシュペーパーを持ってきているかどうかについて調べました。
ゆうじさんは、調べた結果を次のようにまとめました。

学年	ハンカチを持ってきた	ティッシュペーパーを持ってきた	両方持ってこなかった	学年の人数
4年	40	47	2	52
5年	62	61	1	70
6年	52	57	1	60

ゆうじさんが作った表には、ハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた人数が書いてありません。

さくらさんは、ハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた人数を求めるために、表をまどめ直すことにしました。
下の表は、5年生の結果をまどめ直したものです。

		ティッシュペーパー		合計
		持ってきた	持ってこなかった	
ハンカチ	持ってきた	ア	イ	62
	持ってこなかった	ウ	エ	70
合計		61	オ	70

さくらさんは、表をもとに次の式をつくり、ハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた5年生の人数を54人と求めました。

【さくらさんの式】

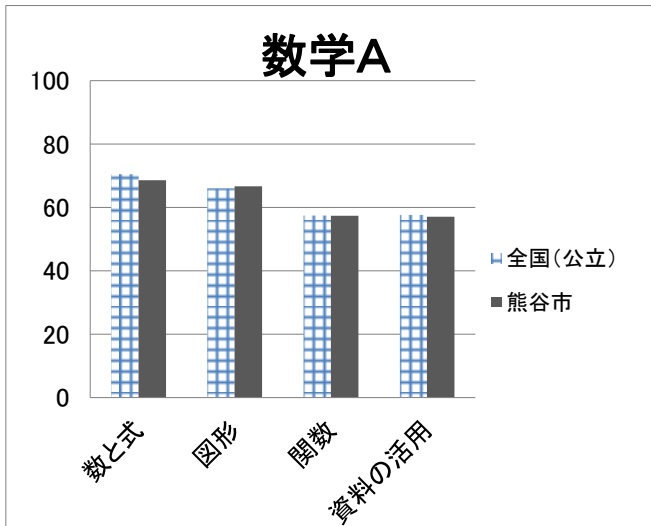
$$70 - 61 = 9$$

$$9 - 1 = 8$$

$$62 - 8 = 54$$

【さくらさんの式】の中の、「9」は、ティッシュペーパーを持ってこなかった人数の合計を表しています。この「9」は表のオ にはあてはまりません。

(1) 【さくらさんの式】の中の、「8」はどのような人数を表していますか。言葉を使って書きましょう。
また、この「8」は、表のどこにあてはまりますか。アからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。



領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「数と式」約69%、「図形」約67%、「関数」約57%、「資料の活用」約57%でした。

●数と式 問題①、②、③

3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す問題の正答率は約90%、一元一次方程式 $4x = 7x + 15$ を解く問題の正答率は約80%でした。

しかし、数量の関係を一元一次方程式で表す問題の正答率は約51%、等式 $x + 4y = 1$ を y について解く問題の正答率は約52%であり、「具体的な場面で、一元一次方程式をつくること」や「等式を目的に応じて変形すること」が課題となっています。

●図形 問題④、⑤、⑥、⑦、⑧

$\triangle ABC$ を、点 A から点 P に移すように平行移動した図形をかく問題の正答率は約92%、1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ問題の正答率は約90%、証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題の正答率は約81%でした。

しかし、半径が5cm、中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める問題の正答率は約29%であり、「扇形の弧の長さを求めること」が課題となっています。

●関数 問題⑨、⑩、⑪、⑫、⑬

比例 $y = 4x$ について、 x の値が3のときの y の値を求める問題の正答率は約87%、一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表す問題の正答率は約78%でした。

しかし、長方形の縦の長さとの面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する問題の正答率は約23%、反比例の表から比例定数を求める問題の正答率は約31%であり、「関数の意味を理解すること」や、「与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解すること」が課題となっています。

●資料の活用 問題⑭、⑮

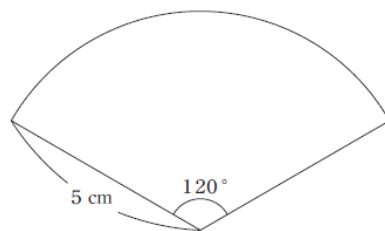
赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める問題の正答率は約85%、さいころを投げるときに同様に確からしいことについての正しい記述を選ぶ問題の正答率は約78%でした。

しかし、反復横とびの記録の範囲を求める問題の正答率は約20%であり、「範囲の意味を理解すること」が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉

④ 扇形の弧の長さを求める問題

(3) 半径が5cm、中心角が 120° のおうぎ形の弧の長さを求めなさい。ただし、円周率は π とします。



⑭ 反復横とびの記録の範囲を求める問題

(1) 次の記録は、ある中学校の生徒7人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

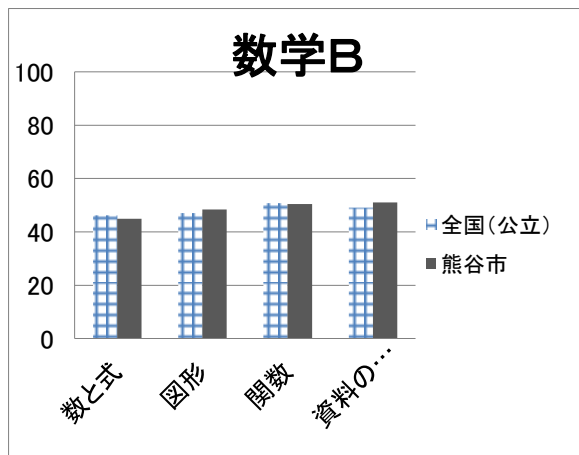
記録

40	46	47	48	53	53	56
----	----	----	----	----	----	----

(単位：回)

反復横とびの記録の範囲を求めなさい。

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「数と式」約45%、「図形」約48%、「関数」約50%、「資料の活用」約51%でした。



●図形 問題①、④

四角形 ABCD の模様が 1 回の回転移動によって四角形 BEFG の模様に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する問題の正答率は約11%であり、「2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明すること」が課題となっています。

●関数 問題③

与えられた表やグラフから、5月31日から4日経過したときに貯水量が2820万m³であったことを表す点を求める問題の正答率は約93%でした。

しかし、与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万m³になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する問題の正答率は約18%であり、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」が課題となっています。

●資料の活用 問題⑤

1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める問題の正答率は約81%でした。

しかし、420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にあると主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する問題の正答率は約19%であり、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」が課題となっています。

●数と式 問題②

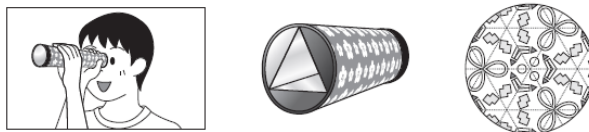
六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める問題の正答率は約80%でした。

しかし、六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する問題の正答率は約12%であり、「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明すること」が課題となっています。

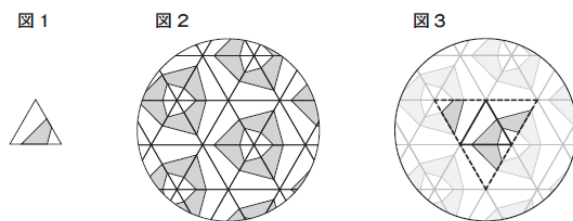
〈課題となっている問題例〉①

四角形 ABCD の模様が 1 回の回転移動によって四角形 BEFG の模様に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する問題

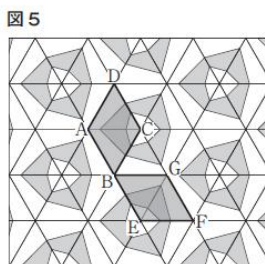
① 万華鏡は次のような筒状のおもちゃで、中に3枚の鏡を組み合わせた正三角柱が入っています。鏡が内側に向いているので、中をのぞくと、正三角柱の底面にある模様が周りの鏡に映って、美しい模様が見えます。



正三角柱の底面にある模様が図1である場合、図2のような模様が見えます。これは、隣り合う正三角形がすべて、共通する辺を軸に線対称になっているとみることができます。例えば、図3にある4枚の正三角形に着目すると、隣り合う正三角形は、共通する辺を軸に線対称になっていることがわかります。



(2) 前ページの図2の模様を図5のように広い範囲で考えます。図5の四角形 ABCD の模様は、1 回の回転移動で四角形 GBEF の模様に重なります。四角形 ABCD の模様は、どのような回転移動によって四角形 GBEF の模様に重なるか書きなさい。



「学習指導改善のための今後の方策」

小学校国語

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、意見や情報を関係付けた話合いの仕方やモデルとなる話合いの仕方を提示し、これに基づいて複数の意見や情報を比較・分類・整理する活動を国語だけでなく、他教科等でも取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「書くこと」については、依頼状や礼状などの基本的な形式を理解した上で、書く相手や目的を明確にして、書く必要のある事柄を選んだり、校正したりする活動を増やすなど、指導の充実を図ります。

「読むこと」については、目的に応じて中心となる語や文を捉え、取り出した情報を比較・分類・整理する学習を増やすなど、指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、日常的に文章の中で当該学年の配当漢字を使う機会や古文を音読する機会を増やすなど、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

「目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す力」や「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く力」、「考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える力」が高まるようにします。そのために、言語活動を行う際には目的や意図を意識させるように指導したり、交流する場面では発言者の意図を捉えながら聞いたりするなど、指導を工夫して、一人一人の言語能力を高めます。

中学校国語

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、学び合いの活動の中で、自分の思いや考えを的確に表現する場面を意図的に取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「書くこと」については、日常生活の中にあるちらしや広告、説明書などさまざまな形式の文章に触れ、その構成の仕方や効果的な伝え方を意識して、実際に作成する活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「読むこと」については、文章の構成や展開、表現の仕方についての自分の考えと、他の人の考えを比べることを通して、自分の考えを深める活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、「楷書と行書の違い」や「比喩」の技法など基礎的な知識を使った活動に繰り返し取り組むなど、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

「複数の資料から適切な情報を読み取り、根拠を明らかにして自分の考えを書く力」、「文章の構成や表現の工夫について、自分の考えを書く力」が高まるよう、国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間など他の教科でも日ごろから様々な形式の文章を書く活動を取り入れたり、新聞を活用した授業を計画したり、学校図書館を積極的に活用するなど、指導を工夫します。

「学習指導改善のための今後の方策」

小学校算数

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「数と計算」については、例えば、「計算の意味」と「計算の仕方」を図や数直線、計算のきまりなどを関連付けながら考察、説明する活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「量と測定」については、異なる量の比較や測定においても、比較や測定の方法は共通であると実感できる場面を設けるなど、指導の充実を図ります。

「図形」については、図形の構成・分解などの活動を通して、図形の性質を見いだしたり振り返ったりしながら図形の性質についての理解を深める活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「数量関係」については、図・式・表が表す意味を明確にし、見いだした数量の関係を言葉や式を用いて考察する場面を設定するなど、指導の充実を図ります。また、割合の学習では、問題場面から数量の関係を的確に捉えるために、数量の大小を考えたり数量の関係を図や数直線に表したりする活動を取り入れるなど、基準量・比較量・割合の関係を捉えるための指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

日常生活の中から児童に必要感のある場面を取り上げ、数理的に捉えて考察したり問題を解決したりする学習を充実するなど、指導を工夫します。

中学校数学

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「数と式」については、線分図や表などを用いて等しい関係を見いだす活動や、等式を変形する目的を明確にし、 x や y について解く活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「図形」については、扇形を円の一部として捉え、弧の長さや面積がその中心角の大きさに比例することを確認する場面を設定するなど、指導の充実を図ります。

「関数」については、事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動や、反比例については、 a を比例定数として、 $y = \frac{a}{x}$ または $xy = a$ という式で表される関係であることを確認する活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「資料の活用」については、範囲の意味を理解できるように、資料の散らばりの程度を捉える場面を設定するなど、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

実生活における具体的な場面での問題を、数学を活用して解決し、また、解決の過程や結果を振り返り、新たな問題を見いだす場面を設定するなど、指導の充実を図ります。